

## 平成29年度第2回安城市地域ケア推進会議

日時 平成29年5月18日（木）  
午後1時30分～午後2時20分  
場所 社会福祉会館 3階 会議室

### 1 会長あいさつ

本日も3つの議題がある。それぞれ在宅医療を進める上で重要な議題なので限られた時間ではありますが、活発な意見交換をして下さい。

### 2 議題

#### (1) 歯科医師会部会より

在宅歯科診療フローチャートについて（資料1）

- ・フローチャートにあるように、まずかかりつけ医に相談して欲しい。
- ・かかりつけ医がいない、かかりつけ医が訪問診療をしていない、またはわからない場合には浅井歯科医院（会長）、大場歯科院（専務）、在宅医療サポートセンターに申込みをして下さい。資料にある医院が対応する。
- ・歯科医師会では要望、苦情も受け付けており、歯科医師会として患者への要望にこたえていきたい。
- ・このチャートを各部会の末端まで知らせてほしい。

#### 意見・質問

- ・表の中に嚙下訓練対応とあるが、歯科医師が対応してくれるのか。  
⇒嚙下訓練について、歯科医師が対応していけるように、歯科医師部会として講習会をしている。
- ・フローチャートを広めるのにどこかに掲載されているとよい。  
⇒安城歯科医師会のホームページを改修中。そこにフローチャートや診療申込み用紙などをアップしていく。
- ・市のホームページにも在宅医療の資源マップがある。  
⇒情報の更新のための調査は済んでいる。医師会については同様の情報が医師会のホームページに掲載されているのでリンクする予定。歯科医師会、薬剤師会については今回調査したものを整理し次第更新掲載をする。歯科医師会のホームページに同様の情報が掲載されるようであれば、情報を統一させるためリンクできるようにしていきたい。
- ・歯科医師会は大変多くの医院が訪問診療に対応している。これからも引き続きお願いしたい。

#### (2) 病院部会 八千代病院より

## 訪問栄養指導事業について（資料2）

- ・在宅における栄養管理の資源がかけている点に注目し、管理栄養士が地域に出向き、訪問栄養指導を行い栄養管理に寄与することを目的にプロジェクトチームを立ち上げ、今年度から事業を開始することになった。
- ・在宅で行うメリットは生活習慣、状況を確認して行うので、現実的で無理なく継続できるプランを提案でき、その結果疾患の重症化予防、嚥下力の低下予防に寄与できると考えている。
- ・対象者は、通院が困難な方の解釈として寝たきりに限定せず、介助がないと通院できない人、認知症などで ADL が低下して通院に支障がある人。また、通院で栄養指導を受けているがなかなか改善されない人に対して、生活を見ながらの指導が効果的な場合も含む。
- ・料金は介護保険（居宅療養管理指導）と医療保険（在宅患者訪問栄養食事指導）で異なる。
- ・介入までの手順は資料のとおり。院内の在宅スタッフとして訪問する場合（主治医が八千代病院）と地域の事業所として訪問する場合（主治医が八千代病院以外）で手順が異なる。
- ・訪問栄養指導の指示書、依頼書を八千代病院のホームページから PDF、エクセルデータでダウンロードできる。
- ・栄養士を社会資源として活用して欲しい。
- ・問合せは電話、メールで受け付けている。

### 意見・質問

- ・子どもへの訪問指導も可能か  
⇒是非対応していきたい。むずかしい点は、八千代病院以外が主治医の場合は医療保険の算定できず、実費負担になる可能性があると認識している。
- ・訪問する時間は？働いている家族が在宅する夕方などの時間に合わせた訪問は可能か。  
⇒いろいろなひとの生活習慣に合わせ、出来るだけ希望に応じていきたい。

### (3) 在宅医療を広く知ってもらうために何をしたらよいか

(事務局) 昨年度看取り、市民の在宅医療の理解を深めるために出来ることについて意見交換した。その中で、在宅の看取りを進める前に在宅医療を支える訪問看護や在宅医療サポートセンター等の資源を知ってもらう必要性があり、それらの資源を利用者の身近にいるヘルパーが知っているという意見があった。また、あんジョイプラン策定のためのティーミーティングで在宅介護体験者の意見として、在宅医療の情報が欲しかったというものもあった。そこで今回は在宅医療を広く知ってもらうために、誰に向けて何を知ってもらうとよいか意見交換をしたい。

### 意見

- ・ケアマネジャーとして相談支援する中で、入院している患者であれば退院後、通院

が難しい利用者に対しては病院から訪問診療の提案があり、ある程度の形が決まって退院することが出来る。日ごろ通院していた利用者が通院困難になるとケアマネジャーに相談がある。利用者は、訪問診療してくれる医師がどこにいるか、費用はどれくらいかかるのか、薬はどうするのかという心配をされる。出来る範囲で説明をしているが、ケアマネとしても情報が見えるものがあると説明しやすい。また、普段医療にも介護にもつながりが無い人にとって、どこに相談してよいか分かるものがあるとよいと思う。

- ・訪問看護ネットワークでは在宅医療の啓発について話し合いをしている。現場で、家族からこういうことをやってもらえるならもっと早く知っていればよかったということを聞く。安城市版のパンフレットを作って人が集まりそうな診療所、町内集会所、福祉センター等にパンフレットやチラシを置く、広報誌やケーブルテレビを活用するなどのアイデアが出た。
- ・町内集会所にチラシ等を置くという意見があったが、町内会に出入りする人は意外に限られている。各家庭に配布するくらいのこととしないと浸透は難しいと思う。チラシ等を配るだけではなく敬老会や老人クラブの集まりなどで説明をし、高齢者から家族に在宅医療を希望することを言ってもらおうと家族の中でも話し合えてよいのではないか。また、地区社協がハートフルセミナーなどの講習会のテーマとして在宅医療を提案してくれるとよい。そのような場には関心の高い高齢者が40人、50人と多く集まる。
- ・在宅医療サポートセンターが相談窓口になってつなぐ役割をしている。サポートセンターも3年目になり、市民からの相談も入るようになってきたが、さらにPRが必要と感じている。市民フォーラムなどの不特定多数の人があつまる場でもチラシを配っている。各戸配布はしていない。サポートセンターをもっと知ってもらうためのPRの方法を今あるものも活用しながら工夫をしていきたい。
- ・在宅医療を知ってもらう対象として患者側だけでなく、患者を介護している人の目に届くようにする。市民の目に触れる場所でブースを持って、集まった人に在宅医療という言葉を知ってもらったり、介護者の相談にのれる場をつくるのはどうか。地道な活動になると思うが、福祉まつりやアンフォーレなど人が集まる場で在宅医療サポートセンターや訪看ネットなどがPRするのはどうか。
- ・訪問看護ネットでは、昨年からは福祉まつりで訪問看護をPRしている。今年は人の目に触れやすい場所をもらえる。そこでは訪問看護だけでなく、在宅医療全体のことをPRしたいと思っている。

- ・七夕まつりのようにPRにキャラクターを利用するのはどうか。
- ・寸劇でPRしている市があると聞いている。わかりやすく伝えられる。
- ・福祉まつりで訪看ネット以外のところも協力したらどうか。

(事務局) PRの手段としてパンフレット、チラシ等を作る、方法として人を集まる場所でのPRや講習会などいろいろな意見をいただいた。パンフレット等を作る際には地域ケア推進会議で意見をもらいながら作成したい。

#### 連絡事項

- ・サルビー見守りネットポータルサイトへの地域ケア推進会議資料の掲載について (資料3)  
各部会のみなさまへの会議資料の配信、報告に活用してください。

- ・在宅医療・介護連携推進のための研修会

①テーマ：アンガーマネジメント (施設部会)

日時：平成29年6月28日(水) 午後6時から

場所：市民会館 大会議室

講師：由宇未空 (ゆう みそら) 氏

②テーマ：エンド・オブ・ライフケア (医師会部会) ※事前申込制

日時：平成29年7月1日(土)午後1時30分から

場所：医師会館2階会議室

講師：杉浦 真氏

③地域包括ケア市民フォーラム

日時：平成29年7月22日(土) 午後1時30分から

場所：文化センターマツバホール

講師：金子稚子氏



次回 平成29年6月15日(木) 午後1時30分～3時 社会福社会館3階 会議室